戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

大きな夢に向かって

(財) 日本ハンドボール協会常務理事　西窪　勝広

今年７月より常務理事という役割を拝命し、日本ハンドボールリーグ機構の副委員長として、企画・運営の業務にあたっております。３月までオムロンそして日本代表監督として現場で指揮を取っていた者が、日本ハンドボール協会の運営に携わる事で責任の大きさを痛感しております。

日本ハンドボールリーグ機構に所属する各企業がハンドボールチームを保有する意義を確固たるものにする為には、保有するチームが常にチャンピオンチームを目指すことであり、また日本をオリンピックに出場させる原動力になることが条件であると考えております。その為にも日本ハンドボールリーグ機構が夢のある運営で、チーム保有の意義と選手個々のモチベーションを高める事が、日本の強化に繋がると確信しております。

まず、いかに多くの方に会場へ足を運んでいただけるか、国際イベント等でマスコミにいかに数多く取り上げてもらえるか企画立案し、１つ１つマーケティングと連携をとりながら課題を解決し、感動を与えられる環境づくりに邁進してまいります。厳しい環境での企業チーム保有ではありますが、各チームが生き残りをかけ、色々な企画を打ち、地域に密着した活動を実施しています。

如何にハンドボールという価値観を自らが作り上げ、各セクション・各チームがそれぞれの文化や価値観を認め合い、個々の長所を伸ばすとともに弱点を補い合い、ハンドボール競技の発展に結び付けていかなければ、明るい未来はないと強く感じます。そのためにも企業チームは取り巻く環境の株主・従業員・取引先・顧客・社会を主なステークホルダーと考え、チームとして各ステークホルダーの期待に応える大きな責任があります。日本ハンドボールリーグ機構としてもその役割を自覚し、日本リーグの活性化の為に私自身も先見力・洞察力・創造力を高め、企画・運営に注力して参ります。チームの所属する県内だけでなく、全国各地に各チームが足を運び、ファンの皆様にいかに満足していただけるか、また自分達がいかに生き残る為にどのような行動しなければいけないか、チーム・選手個々も強く肌に感じ、日々努力しています。

私達の夢はやはりオリンピック出場です。日本ハンドボールリーグ機構の活動で、これからの未来に向かってハンドボールの公器性をいかに認めていただけるか、そして子供達が希望を持ってハンドボール活動に打ち込める環境づくりを一日も早く確立するかが大きな責務と認識しております。多くの皆様から数多くのお知恵を頂きながら、微力ではございますが、大きな夢に向かって努力して参ります。

速報 第60回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技

平成17年10月22日(土)～27日(木)、岡山県立津山工業高等学校体育館（成年男子)、鏡野町多目的屋内運動場（成年女子・成年男子)、真庭市落合総合公園白梅総合体育館、真庭市落合総合公園ゲートボールセンター、真庭市勝山スポーツセンター（少年女子・少年男子・成年男子）を会場に熱戦が繰り広げられた。

天皇杯、皇后杯は共に開催地岡山県が獲得した。種別では成年男子：埼玉県、成年女子：鹿児島県、少年男子：沖縄県、少年女子：東京都がそれぞれ優勝した。なお、地元岡山県勢は成年女子が３位決定戦で日本リーグ７連覇中のメイプルレッズ（広島）に逆転勝ちの３位。成年男子も準々決勝では２連覇した大崎電気（埼玉）にあわやの所まで追い詰め８強。少年男女も４位、８強と大健闘した。詳しい報告は次号、スコアーはスコアールーム①（P.21）参照。

全国理事長会開催

10月22日16時から、岡山市・後楽園ホテルにおいて平成17年度理事長会が開催された。会は山下副会長の挨拶、岡山県協会生本純一会長の歓迎の挨拶から始まり、富山県協会金原至会長（春の全国中学生ハンドボール選手権大会氷見市実行委員会副会長・実施本部長）から来年３月開催の大会の挨拶がされた。続いて日本協会表彰者を代表して後山富士水岡山県協会副会長が表彰された（フォトギャラリー①)。「頑張れハンドボール10万人会」について中野利一担当参事からその主旨と、都道府県協会での取り組み協力がされ、安田博之茨城県協会理事長から報告がなされた（フォトギャラリー②)。理事長会終了後の懇親会では岡山県森安昭雄理事長（フォトギャラリー③）から大会成功への力強い意気込みが発せられた。

各地にて開始式行われる

大会は10月23日から津山市、鏡野市、真庭市において開始式の後スタートした。真庭市会場では大西武三専務理事による開始宣言、瀬島和則真庭市落合町ハンドボール協会理事長を先頭に少年男女選手の入場行進（フォトギャ

Photo Gallery

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

晴れの国おかやま国体

ラリー④)では渡邉日本協会会長が入場行進の礼を受けた。岡山県チームも元気良く行進した（フォトギャラリー⑤、⑥)。井手紘一郎真庭市長（フォトギャラリー⑦)、生本純一岡山県協会会長（フォトギャラリー⑧）の歓迎の言葉、更に本多信吉君（岡山理科大附属高校)、若林美奈さん（岡山県立玉野光南高校）による選手宣誓（フォトギャラリー⑨）がされて競技が開始された。開始式では真庭市立落合中学校・岡山県立落合高等学校の吹奏楽演奏（フォトギャラリー⑩）が華やかに行われた。

常陸宮同妃両殿下来場

競技初日の10月23日、常陸宮同妃両殿下が鏡野町多目的屋内球技場（鏡野ドーム）にお成りになられ、成年女子1回戦福島県対北海道を観戦されました。ご説明役は市原則之日本ハンドボール協会副会長がおこないました。スリリングなプレーに盛んな声援を送られ、競技について質問され、市原副会長の説明に盛んにうなずかれておられました。

会場の暑い声援で会場は沸いた

選手達は地元の家庭に民泊をして試合に臨んだ。選手を応援する主体は民泊協会や家族達（フォトギャラリー⑪)、その応援はコート上の選手に届いていた。3位入賞を果たした岡山県成年女子チームにも多くの声援が飛び交い（フォトギャラリー⑫)、選手達は胸を張ってコートに立っていた（フォトギャラリー⑬)。

Photo Gallery

⑨

⑩

⑫

⑪

⑬

第40回全国高等専門学校体育大会
〈第32回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会〉

全国高専大会を終えて：
豊田高専が４年連続７回目の優勝

大会委員　**野島　伸仁**（サレジオ工業高等専門学校ハンドボール部顧問）

◆はじめに

８月６日(土)～７日（日)、川崎市とどろきアリーナで第32回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会を開催した主管校としての立場から本大会を総括致します。

◆試合形式

全国８地区の予選を勝ち抜いた12の代表チーム（開催校枠１を含む）で２日間の熱戦が繰り広げられました。大会初日は各３チームからなる４グループで予選リーグを行い、各１位の４チームが２日目の決勝トーナメントに進出する試合形式で行われました。全国大会の常連校に加えて今回が初出場の松江高専の参加を得ての大会となりました。

◆成績表彰

成績は豊田高専が４年連続７回目の優勝に輝き、大阪府立高専は優勝を逃したものの２年連続となる準優勝を成し遂げました。決勝トーナメントに臨んだ一関高専と東京高専は決勝戦に駒を進めた２チームを相手にそれぞれ３位に甘んじた。（詳しい結果はスコアールーム②：p.22参照）

優秀選手表彰は次の７名である。

石ヶ守　祐　豊田高専５年
筒井　友也　豊田高専４年
谷　　悠紀　豊田高専４年
木村　大輝　大阪府立高専５年
志水　祐樹　大阪府立高専４年
千葉　純一　一関高専５年
松島　克仁　東京高専４年

◆ベストゲーム紹介

注目の対戦は予選リーグ第三試合の豊田高専vs北九州高専で、いずれも勝者が決勝トーナメントに進める大事な試合となりました。北九州高専のスローオフで始まり終始ペースを崩さず、豊田高専に連続得点を許すも２回のみで15－10で前半を終了しました。あわや豊田高専の連続優勝を阻止するのではないかと思わせる健闘ぶりでした。後半は北九州高専に退場が続くとすかさず豊田高専の筒井、谷、石ヶ守をはじめとする試合巧者の活躍により得点を重ね、20－25で豊田高専が堂々の勝利をおさめました。

◆大会準備

東京都に所在するサレジオ高専は、全国のチームを迎えるべく試合会場を都内に求めて準備を進めた。競技団体の多い東京では会場確保に競合が生じ、抽選に漏れるということが起こり、もはや東京近郊の競技施設を当たるしかなかった。締め切り間際で確保できたのが川崎市とどろきアリーナであった。主管校としては最低でも試合会場と審判団を確保できれば、その他に多少不足があっても参加チームには我慢していただくつもりでいたので、安堵した。

大会準備の過程で、当初東京都内で開催する予定でいたため、川崎市をはじめ関係する周辺団体に礼を欠いたことを申し訳なく思っています。とりわけ神奈川県ハンドボール協会においては後援協力の申し出まで頂戴しながら誠意ある回答ができなかったことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

◆大会の今後に

非公式ながら大会を支援するイベントがあったことを報告します。東京高専とサレジオ高専のOBが発起人となり全国大会出場校のOBに支援の呼びかけをしました。それは試合会場に足を運び現役選手を応援していただくと同時に、交流試合（自称第１回全国高専ハンドボールOBオールスターゲーム）を立ち上げようとするものであった。12高専中９校から40名もの参加があり、オール東北、関東、西日本の３チームの交流戦が実現しました。さらに予選リーグで敗退したチームの中で活躍が顕著であった選手にも光を当てようと、高専ハンドOB会特別表彰を設けました。観戦したOBの投票による選出で、北九州高専の松本良平君（５年生）に

優秀選手特別賞が授与されました。これは熱心なOBと大会運営上の好条件が整い主管校の裁量で可能になったもので、継続発展させるには相当な努力を要します。しかしながら、今後このような高専ハンドボールの活動が生涯スポーツの一例となりハンドボールの発展に貢献できれば幸いです。

◆さいごに

本大会を開催するに当たり多くの方々のご支援・ご協力を賜りました。大会を無事終えることができたのは関係されたすべての方々のお陰と感謝する次第です。ここに心中より御礼を申し上げ謝辞とさせていただきます。

第１回全国高専ハンドボール部ＯＢオールスターゲームの開催によせて

高専ＯＢのネットワークが芽生え

椚田クラブ（東京高専ＯＢチーム）　佐藤　力

2005年8月6日、高専全国大会初日の熱気冷めやらぬ川崎市の等々力アリーナに全国の高専ハンドボール部OB総勢40名が集い、第1回全国高専ハンドボール部OBオールスターゲームが開催されました。高専のハンドボールは公式戦が夏の全国高専大会しかないため選手のモチベーション維持が難しく、近年の学生の部活離れも重なり、ほとんどのチームが選手の確保に苦心している状況です。そのような中、関係者の強い熱意と5年間一貫教育という土壌に支えられ、参加校数は少ないながらも高い実施率（全国63高専中37高専で実施）を維持しています。

今年32回目を数えた全国大会を地元東京の主管で実施することとなり、主管校OBチームの育英クラブ（サレジオ高専OB）と椚田クラブ（東京高専OB）が共催で大会を盛り上げるイベントとして何か企画しようということから、今回のオールスターゲームが実現しました。両チームは毎年夏に長岡高専OBチームを交えて関東信越地区のOB定期戦を実施していることからこの輪を全国に広げていこうということで、インターネットのHPや各メンバーの知り合いを通じて声掛けをした結果、全国9高専から参加者が集まり、第1回の大会を開催することができました。当日は昼間母校の応援に声を枯らし、夜は随所に往年の名プレーを彷彿とさせ

るシーンが見られる熱戦が展開されました。大会は一関高専OBを中心とするオール東北、東京・育英高専OBで構成されたオール関東、北九州・松江・米子・津山・石川・豊田高専OBで構成されたオール西日本の3チーム対抗戦で行われ、若手メンバーを多く擁するオール西日本が手堅い試合運びを見せ、全勝となりました。初代オールスターMVPには石川高専OBの乗地さんが選ばれました。また、OB一同から高専全国大会の優秀選手特別賞1名の表彰も行われ、北九州高専の松本選手が選ばれました。

これまで高専には全国的なOBの組織はありませんでしたがこの大会を通じて各高専OBのネットワークが芽生えました。このネットワークを更に拡大させ、来年以降も大会が発展していけるような活動を続けていければと思います。

学連便り

全日本学連、関東学連の会長決まる

この度、富田寛治前会長、菅清一前会長退任後、空席となっておりました全日本学生ハンドボール連盟、関東学生ハンドボール連盟両会長に、迫本淳一氏・平沢勝栄氏のご就任を戴きましたので、ご案内申し上げます。

全日本学生ハンドボール連盟会長

迫本 淳一（1953年生）

慶應義塾大学卒業

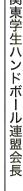
1978年　松竹映画劇場㈱入社
1991年　最高裁判所司法研修所入所
1993年　弁護士登録
1997年　ハーバート大学
　　　　ロースクール客員研究員
1998年　松竹㈱顧問・その後代表取締役副社長就任
2004年　松竹㈱代表取締役社長就任
　　　　現在に至る

関東学生ハンドボール連盟会長

平沢 勝栄（1945年生）

東京大学卒業

1968年　警察庁入庁
　　　　米国デューク大学大学院留学
　　　　在英日本国大使館一等書記官
その後　後藤田正晴官房長官秘書官
　　　　警視庁防犯部長
　　　　岡山県警本部長
　　　　警察庁長官官房害議官
　　　　防衛庁長官官房審議官
1996年　衆議院議員当選（東京17区）
　　　　現在に至る
兼任　慶応義塾大学非常勤講師他

第17回世界女子ハンドボール選手権大会

バウワー全日本 世界に向けて発進

12月5日(月)～12月18日(日)まで、ロシアにおいて標記大会が開催されます。日本は地元ロシアを始め、オランダ、中国、クロアチア、ウルグアイと予選リーグを戦い、上位3位に入り、まずは本戦ラウンドを目指します。試合方法は、4組の予選ラウンド(6チーム1回戦総当たり)→2組の本戦ラウンド(各組上位3ヶ国)→決勝トーナメント(各組上位2チーム)となります。
日本の予選ラウンドの予定は右の通りです。

12月5日(月) 21:00 対中国
12月6日(火) 21:00 対クロアチア
12月7日(水) 17:00 対ウルグアイ
12月9日(金) 17:00 対オランダ
12月10日(土) 19:00 対ロシア
本戦ラウンドは12月12日(月)～15日(木)
準決勝は12月17日(土)
決勝戦は12月18日(日)

60分間相手にプレッシャーをかけ続ける

監督 ベルト・バウワー

ロシアで行われる世界選手権での我々のグループには開催国のロシア、充実した年代の揃ったオランダ、クロアチア、オリンピックを前にした中国などの強豪がひしめいている。開催国のロシアは別格だが、オランダ、クロアチア、中国、そして日本の差は小さく、おそらくこの4チームの中から2チームがメインラウンドと行くことになるだろう。

合宿を通じて私はよい感触を得ているので、是非メインラウンドに行くことにチャレンジしたい。

世界の強豪を相手としたときに、我々は決して大きくはない。したがって、賢くプレーしなければならない。相手の分析が非常に重要となってくる。相手がどのように反応してくるか観察した上で、効果的なプレーを行っていかなくてはならない。そのためには、選手間のコミュニケーションが必要不可欠となる。

我々は、合宿を通じて、ゲームの全体構成の中での各局面におけるプレーの質を高めてきた。我々には相手にないスピードがある。このスピードを使って、我々のゲーム構想の中で、60分間相手にプレッシャーをかけ続けることが重要である。

(文責・藤本　元)

世界選手権に向けて

コーチ 荷川取　義浩
(北國銀行)

世界選手権に向けて、国内合宿を10月12日から16日まで、北國銀行スポーツセンターで行いました。日本リーグ・学生リーグの合間、そして国体の直前でありながら、各所属チームともに快く承諾していただき、有意義な合宿ができたことを報告するとともに感謝申し上げます。

世界選手権の直前合宿として、11月10日から18日まで大阪市で行いました。13日には、日本ハンドボールリーグのご尽力により、壮行試合を開催していただきました。選手達にとって、とても嬉しい事であり、チームとしても世界選手権に向けて、盛り上がる事間違いありません。関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

19日にはデンマークへ出発、最終調整を行い、12月2日に戦いの地であるサンクトペテルブルグに入り、5日の開幕戦、対中国に備えます。予選リーグを突破し、決勝リーグへ進出、1つでもランクを上げて、帰国したいと考えております。

国内での直前合宿から世界選手権終了帰国まで、1ヶ月以上の長期になり、ご迷惑をおかけしますが、選手の所属チームをはじめ、関係各位の皆様方には、何卒ご理解いただき、ご支援・ご声援をお願い申し上げますとともに、皆様方の期待・思いを胸に秘め、チーム一丸となり、戦ってまいりますので、応援のほど、宜しくお願い申し上げます。

世界選手権に向けて

田中美音子
(ソニー・セミコンダクタ九州)

ベルト・バウワー監督になって初めての世界選手権、どうなるのか今からとても楽しみです。

バウワー監督の指導法は今まで私が経験した指導内容とは異なる事が多いので、その中で慣れること、理解すること、そしてどう行動できるかが選手にとって難しいことだと思います。

それは指導する方にも同じことが言えると思います。やりたいことが伝わらない、それに言葉の壁があったり…。でも、そこは監督の人柄や、荷川取コーチ・通訳さんの力も大きく、徐々に浸透してきていると思います。

まだ始まったばかり。多くのことを望んだりしても、簡単にできるはずがありません。しかし、目標とする北京オリンピックに向け、妥協することなく、監督の方向性に順応していくべき時だと思います。上手くいかなくてもまずは挑戦することが大切です。確かにヨーロッパスタイルだけでは、体力的に劣る日本人には難しいでしょう。でも、その中で挑戦しながら、日本人の良い所もミックスできれば面白くなるはずです。

世界選手権はその過程を踏む良い大会になることでしょう。ただ、オリンピック予選はアジア同士の戦いになるのですが…。

まず、どれだけ今の状態でヨーロッパと戦えるのかが楽しみです。予選リーグ突破を目標に、前回以上の評価をもらいたいものです。結果も大事ですが、内容を大事に戦っていきたいと思います。そして、結果もついてくれば最高です!

平成17年度 第57回全日本総合ハンドボール選手権大会

12月21日（水）～25日（日）まで、福井県営体育館、北陸電力福井体育館フレアを会場に標記大会が開催されます。今年は女子世界選手権との関係で年末近くの開催となりました。

インカレ男子優勝の筑波大学

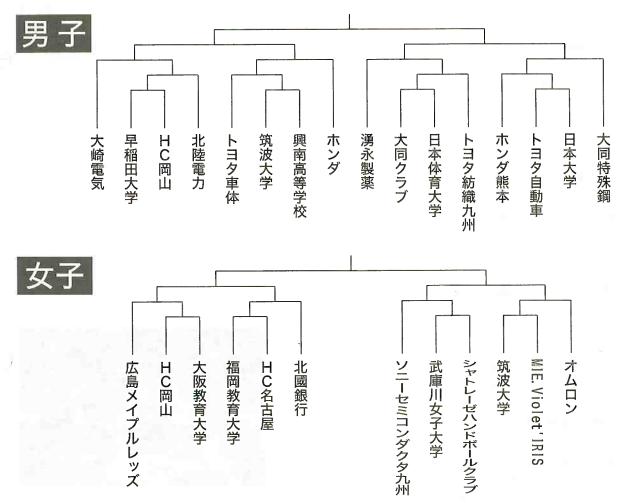
主催：（財）日本ハンドボール協会
主管：福井県ハンドボール協会、福井市ハンドボール協会
特別後援：読売新聞社
後援：（財）日本体育協会、（財）日本オリンピック委員会、福井県、
福井県教育委員会、福井市、福井市教育委員会、松岡町、
松岡町教育委員会、（財）福井県体育協会、福井市体育協会
協賛：（株）アシックス、（株）モルテン、ＡＮＡ、（株）ユニマットオフィスコ、
NIPPOコーポレーション、レオック東京

大会の出場チーム枠は①日本リーグ：男7、女5、②日本協会推薦：男5、女3、③全日本学生連盟：男2、女2、④ジャパンオープン：男2、女2、合計：男子16チーム、女子12チーム。本大会は今年最後の日本一を決める大会です。日本リーグは混戦模様で男女とも実力伯仲。昨年の小松市立高校女子に続き選抜、インターハイ、国体の三冠を達成した男子・興南高校のチャレンジに期待したい。また、昨年に続きインカレ２連覇の男子筑波大学、女子関西勢としてインカレ初優勝武庫川女子大学の大学勢の頑張りも見所である。今年も話題盛りだくさんの大会をご期待下さい。

男子

- 大崎電気
- 早稲田大学
- ＨＣ岡山
- 北陸電力
- トヨタ車体
- 筑波大学
- 興南高等学校
- ホンダ
- 湧永製薬
- 大同クラブ
- 日本体育大学
- トヨタ紡織九州
- ホンダ熊本
- トヨタ自動車
- 日本大学
- 大同特殊鋼

女子

- 広島メイプルレッズ
- ＨＣ岡山
- 大阪教育大学
- 福岡教育大学
- ＨＣ名古屋
- 北國銀行
- ソニーセミコンダクタ九州
- 武庫川女子大学
- シャトレーゼハンドボールクラブ
- 筑波大学
- MIE. Violet'IRIS
- オムロン

競技日程

第１日	12月21日（水）	男子１回戦４試合	
第２日	12月22日（木）	男子２回戦４試合	女子１回戦４試合
第３日	12月23日（金）	男子３回戦４試合	女子２回戦４試合
第４日	12月24日（土）	男子準決勝２試合	女子準決勝２試合
第５日	12月25日（日）	男子決勝戦１試合	女子決勝戦１試合

テレビ放送されます：

12月25日（日）15:00～16:40 ＮＨＫ教育 生中継 ～男子決勝～
※放送延長の場合があります

インカレ女子優勝の武庫川女子大学

親善、そして世界で戦う意識を養う

U-16 監督
古橋 幹夫（小松市立高等学校）

受け入れ

期日：2005 年 9 月 23 日～9 月 28 日
場所：石川県小松市総合体育館

①日韓交流のコンセプト～第 1 回のミーティングから～

Ⅰ．勝つために試合をすること
　ア．判断したプレー
　イ．これから先につながるプレー（将来性）
　ウ．好きなことをやる－チャンスと思ったら即シュート
　エ．守りは常にボールへ
Ⅱ．一人一人がチームを作っていく
Ⅲ．日の丸の付いたジャージ、ユニホームの意義
　ア．コートでは野獣で有れ
　イ．それ以外は女性で有れ
Ⅳ．韓国という国と親善であるということ

②練習トレーニング－ VTR あり－

ウォーミングアップ・フットワーク・1 対 1・2 対 2・3 対 3・4 対 4 ポスト有り・対人パス・GK ノック・6 人のボール回し・6 対 8・等一強化練習会の続き

③練習マッチ（得点中（　）内は 7mT）

◎ 9/24（25 分× 2）
日本 9 － 13 韓国、日本 10 － 13 韓国
　得点：永吉 5、松本 3、中西 2、増田 2、翁長 2、藤井 3、森脇 2
◎ 9/25（25 分× 2）
日本 13 － 11 韓国、日本 7 － 14 韓国
　得点：増田 3、高良 2、永吉 2、戎野 2、中西 3、翁長 1（1）、宮下 1（1）、森脇 3、松本 2、山井 1
◎ 9/26（25 分× 2）
日本 9 － 12 韓国、日本 15 － 16 韓国
　得点：中西 7、山井 2、松本 2、藤井 1、森脇 1、増田 5、翁長 2、高良 2、戎野 2
韓国 28 － 34 小松市立高等学校

④親善試合（25 分ハーフ：9/27）

日本　29（14 － 7, 15 － 12）19　韓国
　得点：翁長 4、高良 4、増田 2、中西 5、森脇 3、松本 4、山井 1、吉沢 1、藤井 3、戎野 1、宇野 1（1）

⑤交流を終えて

9 回目となる日韓親善ハンドボール交流会は、9 月 23 日～28 日に石川県にて韓国チーム受け入れからスタートしました。正味 5 日間の中でも実りあるもので、個人の育成に趣をおいてトレーニング、練習マッチに臨みました。今回の日本チームはその形態からも大いに将来性のある選手が揃っていました。韓国側はポジションプレーによるハンドボールの展開を繰り返す従来のシステムでした。それに対して日本は、7 月の強化合宿にてポジションを移動しての攻撃や 5 － 1、3 － 2 － 1 ディフェンスの採用など、動きの中での攻守をテーマにしてトレーニングさせました。16 名いる布陣についても 2 チームに分け、時間的な制限による交代を主として全員に均等にチャンスを与えました。大型チームとスピードのあるチームという形でそれぞれに考えさせ、またそれぞれの持ち味を存分に発揮できるよう指導しました。各選手の持ち合わせている身体能力は高く、徐々にパスミスが減り、スピードのあるゲームの展開ができるようになってきました。さらにパスの精度を上げることと状況判断プレーの確立を求めていきました。特に目先の勝利よりも後のハンドボール人生につながるような、的確な判断力を養うことを要求しました。

日本での親善試合では、5 － 1 ディフェンスからのプレスを主体として行いましたが、トレーニングと選手たちのトライする精神で概ね機能していました。ゲームの結果は別記にあるとおり、大変自信になる成果が得られました。7 月の強化合宿から比べれば格段にレベルアップしたチームになったと評価しました。ただし、今後の課題としてはいかに攻撃力をつけていくか、BP（バックプレーヤー）としての育成が鍵になると思われます。今年の日本チームは、過去 8 回と比べても 1 番身体的に大きく、大いに今後期待できる選手たちだと思います。各所属チームの監督さんたちに御礼申し上げます。

この事業にご尽力いただきました石川県協会、北国銀行ハンドボールチーム関係者の皆様、高体連・中体連の先生方、小松市の関係各位、誠にありがとうございました。また、各選手、監督、コーチ、トレーナーの所属長様、各教育委員会のご理解とご協力を賜り重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。日本の将来に明るい、意義のある事業であったことを申し上げ、前期の報告と致します。

訪韓

期日：2005 年 10 月 4 日（関西空港ホテル集合）5 日～ 10 日
場所：ソウル・ナショナルトレーニングセンター

①攻撃戦術と防御戦術の確認

ゴールを常にねらう。判断してプレーする。防御は常に高い位置。また状況により誘い込む。

②韓国との合同練習を通して学ぶこと

フェイント力、シュート力

③練習や試合を通してできた自信と今後の課題の確認

合同練習や試合から各自がつかんだもの

④友好と親善

代表選手としての自覚。将来は互いにナショナルチームできるよう研鑽の決意

⑤日程

５日　午後：軽い運動・コーチ会議
６日　午前：主に DIT の課題練習・シュート練習
　　　午後：トレーニングマッチ
　　　　　日本　19（7－13、12－10）23　韓国
　　　　　得点者：中西 2、翁長 2、高良 1、増田 2、戎野 4、森脇 3、藤井 2、永青 2、吉沢 1
７日　午前：韓国スタッフによる合同トレーニング
　　　午後：日本ヘッドコーチによる合同トレーニング
８日　午前・午後：観光＆ショッピング
９日　午前：親善試合
　　　　　日本　27（11－18、16－10）28　韓国
　　　　　得点者：翁長 1、高良 1、増田 3、永吉 2、宇野 2、戎野 2、中西 2、山井 2、吉沢 1、藤井 2、森脇 1、松本 6、宮下 2
　　　午後：予定されていたトレーニングマッチが韓国側の要請によりキャンセルされ合同練習となる。

⑥交流を終えて

石川県小松市で行われた日韓交流の６日後、大きなけがもなく、良い状態で訪韓することができました。韓国側は前回の交流からの課題意識をもち、臨んでくると考えられます。しかし、日本は短期間でできることに重点をおき、高い DF でチャレンジすることや体でなくボールを積極的に奪っていくことを中心に今の状況を修正するトレーニングを図りました。ゲームにおいてアウェーの判定に日本選手は戸惑いとストレスを感じている印象がありましたが、このような経験は世界で戦う意識を養うことに間違いありません。親善試合では、今までと同様に全選手に同じ時間でのチャンスを与え、トレーニングから各自の持ち味と自分の役割の自覚も高まり、1 試合全員得点をあげることができ、すばらしい成果をあげることができました。1 点差で負けはしたものの、敵地での結果は選手のがんばりを大きく評価できると思います。その結果、韓国側が「午後の試合は選手が疲れているのでキャンセルしたい」と申し出があり、日本選手は不満でしたが、一人一人に勝てるという自信とたくましさを感じました。

2005 全日本女子U－16メンバー一覧

監　督	古橋幹夫	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	石塚廣一	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	細津　誠	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	北岡克彦	金沢大学
トレーナー	木下幸司	大阪パンジョスポーツクリニック

	No	氏　名	所属	年
ＧＫ	1	平良彩乃	那覇西高	1
	12	炭床ともみ	宮崎学園高	1
	16	黒田佑子	仁愛女子高	1
ＣＰ	2	翁長和佳子	陽明高	1
	3	高良温子	那覇西高	1
	4	増田寛那	大分鶴崎高	1
	5	永吉未命	宣真高	1
	6	宇野　歩	洛北高	1
	7	戎野満梨奈	四天王寺高	1
	8	中西朋代	小松市立高	1
	9	山井佑利恵	栃木女子高	1
	10	吉沢佳奈	昭和学院高	1
	11	藤井保奈美	小松市立高	1
	13	森脇奈菜	四天王寺高	1
	14	松本紗也香	大分鶴崎高	1
	15	宮下真紀	熊本国府高	1

韓国のプレースタイルはナショナルと同様にポジション攻撃によるものですが、苦しい時のサイドシュートの確率が高く、サイドにパスをさせない DF を図りましたが 1 対 1 の突破力の差を感じることになりました。しかし、日本のコーチによる合同トレーニングにおいては、韓国の選手がはじめて行う動きなのかぎこちなく感じ、ミスが多い姿を見ました。プレーの雑さが目立つことからも韓国は反復トレーニングで良い動きを体得しているものの、調整力が高いとは感じません。室内トラックを日韓対抗でリレーの競争をおこなったのですが、日本のチームの方が 80m 以上差をつけるなど、走力が勝っていたり、この世代ではゲーム後半の強さなどからもスタミナ面でも日本選手の方が優れていると感じました。今後の課題ですが、攻撃の個人戦術（フェイント力・シュートテクニック）を高めていくこと。より状況判断をはじめ常に次を考え読み・予測ができることなどがあげられます。このことを選手が自チームで課題意識を持ち、経験を生かしより成長し、自ら研鑽できるよう助言しました。

この年代で代表として戦う経験は今後のハンドボール観を変え、将来のナショナルチームのレベルアップに大きくつながることであり、今回の交流は大変にプラス材料の多いものになったと考えます。各所属チームの監督にはご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。また、日本ハンドボール協会常務理事の角紘昭様におかれましては、公務多忙のなか日本選手団の代表としてご同行していただいたことに深く感謝いたします。今後の東アジアのハンドボールの発展を韓国ハンドボール協会副会長 Yoo, Donghwa 氏と対談し親交を深めたり、ナショナルトレーニングセンター所長 Lee, Elisa 氏（卓球の五輪金メダリスト）と対談し、韓国のスポーツ強化をうかがいながら対談されるなど親善と友好は日本ハンドボール協会にとっても有意義であったと思います。ありがとうございました。ここに各教育委員会、選手、トレーナーの所属長に御礼を申し上げ、報告いたします。

春の全国中学生ハンドボール選手権大会を始めるに当たって

(財)日本ハンドボール協会常務理事　角　紘昭（普及担当）

平成17年度からの新規大会として、平成18年3月26日（日）～29日（水）、富山県氷見市を会場に「第1回春の全国中学生選手権大会」が開催されます。中学生の全国大会は夏の全国中学生大会、年末のJOCジュニアオリンピックカップと有りますが、どちらもブロック予選を勝ち抜いたチームによる大会でした。（財）日本ハンドボール協会では、ハンドボールの底辺拡大と地域での活性化のために、全都道府県からチームが参加する中学生全国大会を開催することとなりました。

1．当面する課題

この十数年、日本のハンドボールが世界の舞台で活躍できない状態を踏まえ、強化、普及の両面からその施策の見直しがなされた。その結果、平成13年よりナショナルトレーニングシステム（NTS）と小学生チーム3000を柱としたプロジェクト21構想が立ち上げられた。普及と強化が両輪となって強いJAPANナショナルの復活とスポーツとしてのハンドボールの浸透を目指した施策のスタートであった。

◎NTSにおける各カテゴリーでの指導内容の例示・選手の発掘と育成はこの数年の間に県、連盟、各指導者から理解され、U-ナショナルチームは各国際大会でよい結果を出しつつある。その中で強化担当者からは「12～16歳の時期の良いハンドボール経験が不可欠である」と中学生期のハンドボール活動の充実を求める声が強くなってきた。

◎小学生チーム3000については、各地域での小学生を対象とした大会、交流会の増加、各県協会の小学生普及施策の実施などで大会参加総チーム数は400～500チームになってきた。そして、特に小学生チーム関係者からは「せっかくハンドボールの楽しさを味わったにもかかわらず中学生への繋がりが無い」、「中学校のチームが減少しつつある」、「小学生チームが活動している地区の70パーセントは中・高校でハンドボールチームが活動している」などの報告がなされてきた。

2．スポーツ拠点づくり推進事業

プロジェクト21を実現させるには、さらに小学生、中学生の年代層の充実を図る必要性を痛感していたとき「スポーツ拠点づくり推進事業」が総務省より示された。この事業は、

「スポーツによる地域再生」
―スポーツ拠点づくり推進事業―

○スポーツ団体と地方公共団体（市町村）が連携・協力
○小・中・高校生が参加するスポーツの全国大会を「継続的」に開催
○青少年があこがれ目標とする「スポーツの拠点」を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与

を趣旨としている。（財）地域活性化センターがスポーツ拠点づくり推進委員会を設置し、そこにおいて「当該スポーツの振興と地域の再生に期待される効果」を盛り込んだ開催計画書を審査して決定されるものだった。

さっそく各県協会等に紹介したところ、4市の応募があった。後日のスポーツ拠点づくり推進委員会の審査の結果は、少年フェンシング大会、小学生ソフトテニス大会、少年軟式野球大会など28競技大会の中に、氷見市の計画した中学生ハンドボール大会も選考されたのであった。

3．春の中学生ハンドボール選手権大会

この大会の大きな特徴は

①学校単位のチームのほか地域の中学生クラブチーム、合同チームも参加の対象としていること
②対象年齢を中学2年生までとしていること
③各都道府県1チーム参加でそれぞれの県協会が認めたものであること

さらには、初回敗退で終わりではなく、もう一つの交流大会への参加の機会が準備されていることも大きな特色である。

普及の面からは、

④各都道府県1チーム参加であるため全国の中学生ハンドボーラーが参加する機会が増え、多くの交流の機会が準備されていること
⑤クラブチームや合同チームの参加が認められているためいろいろなチーム編成が可能であると同時に、小学生チームも将来の目標ができたこと

強化の面からは、

⑥春の大会→夏の全国中学校大会→冬のJOCカップと一連のつながりのある選手育成が可能となったこと

など当面する課題の解決の一助となり得ると考えます。

4．今後への期待

日本協会としては、全国的に見て、中学生のハンドボールの普及は未だ十分とはいえない中、この大会を機会に各県各地域で「中学生のハンドボール」を育てていくという視点で取り組んでいただきたいと思います。また、年度末のこの時期は、中学校の教員はとりわけ多忙な時期であるため、この機会だからこそ広く指導者を発掘し、この年代層の指導の充実を図っていただきたいと考えております。

岡山国体、全国理事長会で大会抱負を述べる金原至実施本部長（右端）と寶住哲郎事務局次長（中央）

平成16年度日本ハンドボール協会表彰者　一覧

都道府県	候補者	所属	役職	備考
岩手県	小友正人	富士大学	副会長	永年に渡り、県協会の常務理事として普及、強化、審判員育成、技術向上、組織力の向上に貢献した。日本協会審判委員、東北協会審判長。H4 第 16 回高校選抜大会女子監督として盛岡第二高校 3 位。H10 第 53 回国体少年女子監督 3 位。
福島県	関川正道	なし	副会長	県協会の組織強化、大会運営の計画、選手強化計画等に貢献し、現協会の礎をなした。日本協会理事。東北連盟理事。
千葉県	日根野　寛	放送大学講師	参与	S50 第 26 回インターハイ県立清水高校優勝監督。千葉県高体連専門部委員長。指導者育成。
東京都	近藤金博	なし	元 常務理事	選手、監督として活躍し、名選手を育てた。審判員として活躍。都協会常務理事、審判長、日本協会強化部長、日本リーグ運営委員、実連審判長。
神奈川県	森川利昭	なし	副会長	40 年間県協会役員。県体協競技力向上委員。県協会理事長時「かながわ・ゆめ国体」基盤作り。
山梨県	堀内和弘	双葉公民館館長	参与	県協会理事・常任理事として高校の競技力普及発展に尽力し、地方競技団体の技術･競技運営向上など、県協会の基盤作り。第 41 回かいじ国体成功の原動力。
石川県	村井輝邦	なし	参与	永年に渡り、高校顧問として選手の始動育成に努めた。県協会役員として（理事長 10 年）協会運営に尽力。
愛知県	間瀬和義	なし	顧問	県高校ハンドボール部の振興・発展に貢献。地域の一般リーグ創設、少年 HB 教室の開設に貢献。大会開催で振興・発展に貢献。県協会役員（常任理事・副会長）として貢献。その他
三重県	都梅芳治	なし	副会長	永年に渡り県協会に所属し（～ H16 副会長）、尽力。中学校教諭として中学生指導。退職後小学生への普及、強化に尽力。
京都府	藤本　昇	なし	前理事長	府下高校レベルアップに努力し、優秀な人材を育成。府協会審判長、近畿協会審判長、日本協会審判審査指導委員で審判育成に尽力。府協会副理事長・理事長として、京都国体成功に尽力し、全国小学生大会、国際大会等開催に尽力。
兵庫県	北山　隆	滝川学園高校中学	常任理事	選手として活躍。第 26、27 国体教員の部優勝・準優勝主将。審判として活躍。県協会常任理事として各種大会運営に尽力。
岡山県	後山富士水	なし	副会長	選手として活躍。県協会副会長、日本協会評議員など協会発展に寄与、尽力した。
広島県	ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ			日本リーグ 7 連覇
福岡県	龍　昇	なし	元理事	高校（久留米工業高校）指導で、全国優勝 17 回の名将。県協会の強化、普及、発展に寄与。多くの日本代表選手を輩出。
佐賀県	武富義尚	なし	副会長	県協会設立時より事務局担当。県高体連専門委員として大会運営に尽力。県協会常任理事、副会長を歴任、県協会運営に尽力。
熊本県	松原正岳	滋眼院住職	副会長	S34 県内で初めての地域協会（本渡協会）設立に尽力。1997 熊本世界選手権誘致、開催に尽力。H11 熊本国体開催時副会長として運営に尽力。
高体連	宇佐美幸彦	なし	前部長	群馬県高体連委員長、群馬県協会理事長・副会長、全国高体連ハンドボール専門部監事、部長を歴任。
高専体協	豊田工業高等専門学校			第 29、30、31 回全国高等専門学校選手権大会 3 連覇（大会史上初）
日本協会	小松市立高等学校			高校 3 冠
日本協会	冨田寛治			日本協会副会長　平成 10 年～ 16 年　7 年間
日本協会	齊藤　實			日本協会常務理事　平成 10 年～ 16 年　7 年間
日本協会	石井　勝			日本協会常務理事　平成 14 年～ 16 年　3 年間

～岡山で燃えた地域パワー～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

地域連携というか、地域のあと押しが選手を燃えさせる。こうした光景に接したのが、「晴れの国おかやま国体」だった。地元岡山が他を圧倒してうれしい初めての総合優勝というフィナーレにつないだ。

成年女子は準決勝で優勝した北国銀行（石川）と大接戦し、３位決定戦では日本リーグ７連覇中のメイプルレッズ（広島）に逆転勝ちの３位。成年男子も準々決勝では２連覇した大崎電気（埼玉）にあわやの所まで追い詰め８強。少年男女も４位、８強と大健闘したのは驚きの連続だった。地道に積み上げげた強化が実ったことを証明しただけでなく「大歓声」という地域の熱気、パワーが選手に想像以上のプレーを引き出させたともいえると思う。

やはり戦いは技術＋メンタルが絡みあって相乗効果をもたらすのだということを実感した。「よくぞ頑張った」と、岡山勢に拍手を送りたい。

さて、もう一つのハイライトは少年男子。春のセンバツ、夏のインターハイに続いて興南高（沖縄）の３冠なるかに興味が集まった。ご存じのようにまったく危なげなくすんなりとタイトル総なめの結果を刻んだのだ。新設された世界ユースアジア予選を兼ねた東アジアユース（Ｕ－19）代表の棚原が34点、東長濱が決勝の12点を含め38点と大暴れした。将来の日本代表の座を狙うに十分の素材であることを改めて実証したといえよう。

高校３冠は昨年度の女子・小松市立高（石川）に続いての快挙である。来年度はきびしくマークされるだろうが、互いにしのぎあうことがレベルアップに効果を上げることはうれしいことでもある。

まもなく全日本総合選手権が開かれる。昨年の小松市立高に続いて、今年は男子の興南高の出場が楽しみである。女子の出場は1971年の第23回以来となったが、興南高がコートに立てば1975年、第50回の清水高（静岡）以来の「画期的な出来事」となる。

男女とも高校生がこれだけの長期間、出場がなかったのはいろいろな理由があるだろう。高校３年生は国体が最後の舞台。進路決定や入試も控えているし、新チームに切り替える時期でもある。選手のモチベーションをどう維持するかという問題もある。小松市立高も最初はこうした「壁」に戸惑いがあったと聞く。しかし、せっかくのヒノキ舞台。今後もハンドボールを続けるには国内最高のコートを経験するのは決して無駄ではない。また、ハンドボールとの縁を一時は切りたいと思っている選手にとっても、いい思い出になるし、将来、社会人として活動の大きな支えになるのではなかろうか。興南セブンが全日本総合のコート上で活躍、高校三冠の力を見せてくれることを期待したい。

ところで、地域と最も関係が深いのは高校である。普及の担い手ともいえる。それを強化にどのように繋いでいくかが、今後の最大のテーマではある。しかも、高校日本ナンバーワンを生んだ地域は住民の関心も高い。ハンドボール競技集客のターゲットにもなりうるはずだ。

沖縄は今、フランスのニームで活躍している田場裕也選手のふるさとである。彼のバイタリティーあふれるプレーは、現在の沖縄県ハンドボール界の積極的な活動に似ている。小学生、中学生の活況が高校の活動と連動していることは十分にいえるし、全国でも数少ない沖縄女子リーグも今年で10周年を迎えた。こうした各カテゴリーでの活動がハンドボール地域密着として息づいているのだろう。

関係者、愛好者だけでなく、いかに一般の人たちにアピールするか。長い間、頭を痛めている懸案ではあるが、沖縄という良い手本が身近にある。強化と同時進行でこうした集客戦略も推進していくことは欠かせない。普及と強化は切っても切り離せないものである。岡山の今後にも注目したいし、岡山に咲いた「ハンドボールという花」をいつまでも枯れさせない努力も重要である。ヨーロッパ型のクラブ化が進む今こそ「芽」を育てるには、一般の人たちに興味を持たせる戦略が大切。沖縄の活動、岡山に育ちつつある芽は、日本の将来を左右する重要な出来事である。

NTS2005報告

NTSコーディネーター　田中　茂

各地でのブロックトレーニングも終了し、全ブロックよりセンタートレーニングへの参加選手が推薦され、最終選考を行い、センタートレーニング参加選手が決定いたしましたのでお知らせいたします。

なおセンタートレーニングの開催場所も決定いたしましたので重ねてご連絡いたします。

中学生男女：１月６・７日　　中部大学体育館
高校生男女：１月７・８・９日　中部大学体育館

高校男子

No	選手名	学校・チーム名	都道府県名
1	齋藤　英樹	学法石川高校	福島県
2	小室　大地	藤代紫水高校	茨城県
3	大山　天靖	藤代紫水高校	茨城県
4	坂　洋明	藤代紫水高校	茨城県
5	塚本　博樹	伊奈高校	茨城県
6	佐藤　奏吉	市川高校	千葉県
7	篠崎　達也	浦和学院高校	埼玉県
8	畑山　政也	浦和学院高校	埼玉県
9	光武　純	法政第二高校	神奈川県
10	根本　恭兵	法政第二高校	神奈川県
11	大嶋　誉志央	北陸高校	福井県
12	生川　岳人	北陸高校	福井県
13	加藤　佳樹	北陸高校	福井県
14	多和田　裕介	岡崎城西高校	愛知県
15	樋口　睦	愛知高校	愛知県
16	阿部　秀則	向陽高校	京都府
17	堀　昭広	大阪体育大学浪商高校	大阪府
18	岩下　幸司	此花学院高校	大阪府
19	南口　裕基	桃山学院高校	大阪府
20	松本　勇樹	香川中央高校	香川県
21	濱田　竜士	高知東工業高校	高知県
22	前本　彰一	福岡魁誠高校	福岡県
23	久保　侑生	大分国際情報高校	大分県
24	甲斐　昭人	小林工業高校	宮崎県
25	川畑　一刀	小林工業高校	宮崎県
26	木切倉　真一	小林工業高校	宮崎県
27	内田　武志	興南高校	沖縄県
28	棚原　良	興南高校	沖縄県
29	東長濱　秀希	興南高校	沖縄県
30	砂川　慶成	興南高校	沖縄県
31	上原　健治	興南高校	沖縄県
32	前里　亮太	興南高校	沖縄県
33	石川　出	興南高校	沖縄県

高校女子

No	選手名	学校・チーム名	都道府県名
1	増子　友里恵	札幌月寒高校	北海道
2	降旗　舞	不来方高校	岩手県
3	川崎　愛	土浦第三高校	茨城県
4	鳥飼　翠	富岡東高校	群馬県
5	小菅　由貴	吉井高校	群馬県
6	小林　亜里紗	日川高校	山梨県
7	橋本　千里	高津高校	神奈川県
8	川島　未希	横浜創英高校	神奈川県
9	梅林　由	市立清水商業高校	静岡県
10	中尾　由莉亜	小松市立高校	石川県
11	樹下　真実	小松市立高校	石川県
12	山野　由美子	小松市立高校	石川県
13	作内　杏那	高岡向陵高校	富山県
14	石野　実加子	氷見高校	富山県
15	八十島　智美	福井商業高校	福井県
16	池之端　弥生	飛騨高山高校	岐阜県
17	鈴木　身江子	暁高校	三重県
18	山上　麻美	洛北高校	京都府
19	後藤　千渡世	洛北高校	京都府
20	岡本　真季	四天王寺高校	大阪府
21	若泉　春香	四天王寺高校	大阪府
22	亟々　知佳	夙川学院高校	兵庫県
23	林　志帆	夙川学院高校	兵庫県
24	荒金　薫	夙川学院高校	兵庫県
25	前田　奈美	玉野光南高校	岡山県
26	石原　直美	玉野光南高校	岡山県
27	塩田　沙代	高松商業高校	香川県
28	西村　友理佳	高水高校	山口県
29	永田　しおり	福岡女子商業高校	福岡県
30	野口　徳子	神崎清明高校	佐賀県
31	稲葉　由衣	熊本国府高校	熊本県
32	下地　まいの	那覇西高校	沖縄県
33	翁長　茉莉枝	陽明高校	沖縄県

中学男子

No	選手名	学校・チーム名	都道府県名
1	高橋　一誠	北松園中学校	岩手県
2	渡部　健介	湯沢北中学校	秋田県
3	木村　昌丈	鬼怒中学校	茨城県
4	会田　亮祐	けやき台中学校	茨城県
5	三富　康平	けやき台中学校	茨城県
6	篠崎　剛志	富岡東中学校	群馬県
7	和田　涼大	洲中学校	千葉県
8	高田　剣	町田南中学校	東京都
9	牧山　仁志	西中原中学校	神奈川県
10	西川　雄樹	西條中学校	富山県
11	岡山　健太	高橋中学校	愛知県
12	山本　智哉	汐路中学校	愛知県
13	後藤　隆志	平針中学校	愛知県
14	佐藤　慶太朗	桂川中学校	京都府
15	本田　大貴	久米田中学校	大阪府
16	延山　祐一	市岡東中学校	大阪府
17	小山　亮大	瀬中学校	奈良県
18	萩原　崇史	三郷中学校	奈良県
19	糟谷　周穂	浜の宮中学校	兵庫県
20	宮本　克哉	高砂中学校	兵庫県
21	久保　龍太郎	香川第一中学校	香川県
22	木村　暁	東部中学校	山口県
23	西岡　成憲	通津中学校	山口県
24	安松　泰助	粕谷中学校	福岡県
25	鈴木　優太	花畑中学校	福岡県
26	内野　康平	那珂中学校	福岡県
27	川端　勝茂	日吉中学校	長崎県
28	大鶴　峻介	稙田西中学校	大分県
29	高木　大地	稙田西中学校	大分県
30	徳重　遼平	隼人中学校	鹿児島県
31	高良　耕平	浦西中学校	沖縄県

中学女子

No	選手名	学校・チーム名	都道府県名
1	佐竹　明日香	矢巾北中学校	岩手県
2	陣野　瞳	大平南中学校	栃木県
3	笠原　梨加	吹上中学校	栃木県
4	斉木　梨恵	岩井中学校	茨城県
5	高橋　花林	岩井中学校	茨城県
6	小菅　亜実	富岡東中学校	群馬県
7	長洲　美加子	花見川第二中学校	千葉県
8	松本　淑佳	大門中学校	富山県
9	笠原　朋香	大東中学校	福井県
10	加仁江　真実	平針中学校	愛知県
11	大岡　未英	大塚中学校	愛知県
12	辰谷　春奈	西笹川中学校	三重県
13	森澤　佳奈	住吉第一中学校	大阪府
14	熱見　志帆	住吉第一中学校	大阪府
15	秋田　紗貴	上中学校	奈良県
16	平岡　朋子	上中学校	奈良県
17	乾　彩友美	上中学校	奈良県
18	舩留　優香	大蔵中学校	兵庫県
19	北角　成美	勝賀中学校	香川県
20	河田　知美	香東中学校	香川県
21	木村　あい	今治東中学校	愛媛県
22	宮崎　祐子	花畑中学校	福岡県
23	松尾　祐依	花畑中学校	福岡県
24	森口　英里加	本渡中学校	熊本県
25	松本　史	本渡中学校	熊本県
26	平川　愛里	原川中学校	大分県
27	工藤　咲	稙田中学校	大分県
28	原　希美	延岡中学校	宮崎県
29	川俣　ゆかり	重富中学校	鹿児島県
30	上原　未希	浦添中学校	沖縄県
31	平良　紫野	港川中学校	沖縄県
32	森　鈴菜	神森中学校	沖縄県

平成17年度第8回ハンドボール研究集会報告

学校体育検討専門委員会　佐藤　靖（秋田大学）

第8回研究集会（主催:（財）日本ハンドボール協会、主管:熊本県ハンドボール協会・山鹿市教育委員会、後援:文部科学省・熊本県教育委員会）は、「ボール運動教材としてのハンドボール」をテーマとして、8月4日（木）から5日（金）まで、熊本県山鹿市総合体育館を会場として開催され、盛会裏に終了した。参加者は全国より集まり、多くの研究・実践報告や授業提案、講演等に聞き入っていた。とりわけ文部科学省教科調査官、今関豊一氏の講議では、学習指導要領見直しの動向に触れながら、これからの学校体育に必要なのは教師の指導性であり、体育授業では、児童や生徒に学習内容をしっかり身につけさせることが大切であり、「楽しさ・できる」「できる・楽しさ」が求められることが強調された。また、運営のアシスタントとして、爽やかなオムロンハンドボール部員も加わり、充実した研究集会となったことが特筆できる。研究集会の概要は以下の通りである。

◆8月4日（木）

[研究・実践報告]

①「戦術学習の楽しさを味わうために」　山本　繁（岩手県玉山村立玉山小学校）

②「小学校高学年におけるハンドボール指導のあり方
川角朋之（島根県仁多町立阿井小学校）

③「ゲームの楽しさを味わわせるNICE PLAY HANDBALLの指導―子どもの動きを高める学習過程と支援の工夫を通して―」　児玉清孝（福岡市立別府小学校）

④「小学校低・中・高学年の系統性を考慮したハンドボール授業の検討：基礎感覚・基礎技能を重視した授業展開」　冨永泰寛（熊本県大津町立大津東小学校）

⑤「小学校におけるハンドボール授業の方法に関する研究：ボールの違いに着目したゲーム分析」　瀬川陽子（鳴門教育大学3年）

⑥「投能力向上に関する一考察―投擲用具を利用した投能力の向上」
信原悦治（岡山市立西小学校）

[講　議]

「これからの学校体育に求められるもの」
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
（併）文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官　今関豊一氏

[実技研修]

「低学年のボールゲームを考える」
東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校副校長　藤井喜一氏

◆8月5日（金）

[授業提案]

①「ハンドボールを楽しもう：走って、跳んで、投げて、決めろ!!」（5年）
授業者:寺前研太郎（山鹿市立広見小学校）

②「パス！　シュート！　はじめてのハンドボール」（3年）
授業者：館山恭一（山鹿市立稲田小学校）

[講　演]

「ボール運動教材としてのハンドボール」　秋田大学教育文化学部教授　林　恒明氏

平成17年度
第8回ハンドボール研究集会役員

■熊本県実行委員会
会　長：
島田俊郎（熊本県ハンドボール協会会長）
副会長：
井　薫（同副会長）
早川典宏（同副会長）
松原正岳（同副会長）
委員長：
葦原大三（同理事長）

■運営委員会
委員長：緒方知秋（同副理事長・古町小学校）
副委員長：
建岡欣也（東稜高校）
中川秀人（山鹿市教育委員会）
委　員：
宮瀬知周（熊本国府高校）
宮田政克（必由館高校）
黒木幸博（山鹿中学校）
奥園栄純（熊本県教育庁体育保健課）
土田幸生（玉名町小学校）
西村正之（白山小学校）
濱武輝光（山鹿市教育委員会）
古川善一（同委員会）
前田貴弘（同委員会）

■（財）日本ハンドボール協会
学校体育ハンドボール検討委員会
委員長：佐藤　靖（秋田大学）
委　員：
大西武三（筑波大学）
角　紘昭（名古屋市教育委員会）
佐藤勝弘（新潟医療福祉大学）
南木雅弘（神奈川県立栗原高校）
小山　浩（筑波大学附属中学校）
小林和子（山形県飯豊中学校）
村山明夫（神奈川県立六ッ川高校）

熊本県協会だより

平成17年度ジュニアー貫指導体制

熊本トレーニングシステムに取り組んで

熊本県ハンドボール協会　理事長　大宮　泉（熊本市立千原台高校）

熊本県のハンドボール強化と普及並びに愛好者の拡大を求めて、熊本トレーニングシステム（K・T・S）を立ち上げました。

本県ハンドボール界の伝統は、全国でも目覚ましいものがあり、中でも、小学校・中学校・高校・一般の全国大会での優勝が102回（平成17年10月現在）を数えます。この日本一の回数は他のスポーツ競技の追随を許さないだ

平成17年度ジュニアー貫指導体制整備事業

①組　織　K　T　S（熊本ハンドボールトレーニングシステム）

運営委員会（17名）　総括・部長・アドバイザー・総務部・技術部長・チーフインストラクター
技術委員会（13名）　総括・部長・技術指導

②育成プログラム

○練習会（地域トレーニング）

7月28日小学校部会

小・中・高・大学の県内外大会へKTSスタッフの派遣
ー各年代における現状把握
（特に中学校・高校の新チームでの九州大会・全国大会でのレベルの確認。全国大会で活躍できる選手の発掘）

○合宿（中央トレーニング）

③事　業

小学生地域別トレーニング　8月実施（選手自費参加）
中央トレーニング参加男女各30名選考

【指導スタッフ各地域6名】
・城北会場：オムロン（玉名・鹿本郡市・熊本市）
・城北A会場：宇土市
・城北B会場：美里市
・城北会場：本渡市（本渡市・苓北市）

中学1・2年生トレーニング（選手自費参加）
中央トレーニング参加男女各30名選考
実施日：11月23日　会場：熊本市　スタッフ6名

中央トレーニング（1泊2日）

個別（対象エイジ）	実施日	会場	参加人数	指導スタッフ
小学生	10月	オムロン	男女各30名　計60名	6名
中学生1・2年生	12月	オムロン	男女各30名　計60名	6名
中学3年生※①	9月	オムロン	男女各20名　計40名	6名
高校1年生※②	10月	オムロン	男女各20名　計40名	6名
高校2年生※③	1月	オムロン	男女各20名　計40名	6名

※①7月30日選考　JOC参加
※②8月21・22日1年生大会で選考
※③11月の高校選抜県予選で選考

各年代に応じたKTSのプログラムに沿って系統的・継続的にトレーニングを進め、高校では熊本県選抜チームとして戦術を確立する

○　指導者講習会

指導者講習会	実施日　2月
	対象　小中高指導者　60名

○　運営委員会
○　技術委員会

運営委員会	実施回数　9回（6月～毎月）
技術委員会	実施回数　7回（地域トレ2・中央5）

※スポーツ医科学対策ー県体協サポート事業の活用

医科学サポート→トレーナーの派遣
心理サポート→定期的な講習会の依頼
体力サポート→年度別に熊本県選抜チームのデータ収集及び活用

④KTSの目的・活用

K　T　S

小学生	NTS九州ブロック
中学生	JOCジュニアオリンピック・NTS・U-16
高校生	国体選手・NTS・U-16・U-19

※　NTS：ナショナルトレーニングシステム

ろうと自負しています。これは、永年にわたり御指導された先達の先生方、選手の汗と涙の結晶でもあります。この伝統をもとに、さらなる発展を期するため、学校や地域の枠を越えて各年代の指導者が一致協力することがＫＴＳの目標です。小学校による底辺拡大を図り、中学校から高校へと育成強化し、大学に送り、実業団に結びつけ、世界（オリンピック）に羽ばたく選手達を輩出する、この大きな構想の実現に向かって一歩一歩ですが前進させていきます。日本リーグで活躍するホンダ熊本・オムロンを頂点として、高校、中学校、小学校が一連の指導体制のもと、全国大会優勝や入賞目指して一丸となり努力を積み重ね頑張っているところであります。

ただ、勝利を第一に考えることは指導者として当然のことではあますが、それよりも何よりも、日々の地道な研鑽なくして輝きは生まれないと確信しています。

このように、小学校・中学校・高校・一般とが一貫した考え方のもと熊本県ハンドボール界を大きく育んでいるところであり、日本を代表し、世界（オリンピック）の檜舞台で活躍する選手が生まれるように限りなき前進に努めています。

皆様方の御力添え、御支援を賜りK・T・Sを飛躍させていきたいと思っています。何卒、皆様の御導きをよろしくお願い申し上げます。

熊本県ハンドボール協会　KTS（熊本ハンドボールトレーニングシステム）委員名簿

役職		氏名	所属
ＫＴＳ統括部長		大宮　泉	熊本市立千原台高校
ＫＴＳ部長		北島　潤一	熊本県立松橋高校
アドバイザー		田上　敬三	本田技研工業㈱熊本製作所
アドバイザー		西窪　勝広	オムロンリレーアンドデバイス（株）
総務部	総務	奥園　栄純	熊本県教育庁体育保健課
	ＮＴＳ	鎌田　雅彦	熊本国府高校
	指導者	建岡　欣也	熊本県立東稜高校
	ドクター	坂口　満	熊本整形外科病院
	高校部	宮田　政克	熊本市立必由館高校
		松本　幸介	熊本県立済々黌高校
	中学部	黒木　幸博	山鹿市立山鹿中学校
		西浦　伸一	苓北町立都呂々中学校
	小学部	吉田　俊彦	宇土市立花園小学校
		舛田　真一	美里町立中央小学校
技術指導部	技術部長	佐々木　信男	本田技研工業㈱熊本製作所
	チーフインストラクター	緒方　剛	本田技研工業㈱熊本製作所
		黄　慶泳	オムロンリレーアンドデバイス（株）
	デモンストレーター	ホンダ熊本	本田技研工業㈱熊本製作所
		オムロン	オムロンリレーアンドデバイス（株）
	インストラクター	宮瀬　知周	熊本国府高校
		中野　靖士	城南町立下益城城南中学校
		魚住　和彦	本渡市立本町中学校
		鶴田　祐一郎	熊本赤十字健康管理センター
		宮城　徳隆	本田技研工業㈱熊本製作所
		浦塘　勝彦	熊本市立城南中学校
		田口　順子	水俣市立第１中学校
		森田　勇	熊本県立黒石原養護学校

熊本トレーニングシステムの取り組みについて

熊本県ハンドボール協会強化部長
北島　潤一（熊本県立松橋高等学校）

熊本県体育協会の補助を受けて、ジュニア一貫指導体制推進事業としてハンドボールでは、一昨年よりＫＴＳとして、取り組んでまいりました。その結果、昨年度埼玉国体において5年振り3回目の競技別天皇杯を獲得。また、今年度においては7月に京都で開催された第18回全国小学校ハンドボール大会において、男子の中央小学校が優勝、女子の玉名町小学校が準優勝しています。また、8月愛知県で開催された第34回全国中学校ハンドボール大会において、女子の本渡中学校が3位入賞を果たしており、この事実の成果が各カテゴリーにおいて見られます。そこで、今回は、このＫＴＳについて組織図を交え紹介させて頂きます。

《目的》

①小・中・高の各種大会から選手を発掘し、ＫＴＳ（熊本トレーニングシステム）のプログラムにそって系統的・継続的に強化を推し測り、将来的には大学生の有力選手の成年への補強も視野に入れ、国体における種目別総合成績において常に上位を維持する。

②ジュニア層の優秀な人材確保に努め、育成するために地域クラブの活性化をより一層進める。

③ＫＴＳから日本ハンドボール協会の事業であるＮＴＳ（ナショナルトレーニングシステム）へ発展させ、U－16・U－19・U－23の各世代の代表、そして日本代表選手をより多く輩出する。

④県内指導者の拡大・育成を図るとともに、統一した指導方法を浸透させる。

《活動上の課題》

①所属チーム、学校、家庭のこの事業への協力体制の確立。

②選手とスタッフとのスケジュールの調整、活動場所、経費の確保。

③本当の意味での強化につながるトレーニングメニューの構築。

地域におけるハンドボールの普及強化に関する事例発表 part II

中島昭博（岩手県立花巻北高等学校）写真左　柏葉公平（新興製作所）写真右

目的

地方におけるハンドボールの普及及び強化活動「イーハトーヴ花巻にハンドボールの輪を広げよう！」の事例報告をもとに、各方面との情報交換を促進してハンドボールの発展に寄与する。平成15~16年度に行政の支援を受けて展開してきた「地域シンボルスポーツ推進事業」とその他の実践報告。

「地域シンボルスポーツ推進事業」

主催：県教育委員会、共催：市教育委員会

（１）趣旨：地域に根ざした競技スポーツの振興及び選手の育成強化を図るため、これまでの伝統や地理的条件等に配慮し、競技種目別に12の拠点校を定め、当該校の所在する地域の中学校や地域指導者との交流を通じ、ジュニア期から高校まで一貫した指導体制の確立を図る。

（２）拠点校と目的：ハンドボール種目は花巻北高が拠点校となり、地域の小・中・高、大学、一般選手及び指導者の相互交流、ジュニア期からマスターズまで地域に根ざしたハンドボール文化の振興を推進しながら、県全体の競技力向上に寄与する。

（３）事業の概要：H15～H16年度

①ハンドボール・キャラバン（出張授業）、市小学校教室＆県交流会、小学校研究集会＆Ｊ級指導員養成講習会、鹿骨中招待試合、中学３年交流試合、中高合同講習会、初心者教室、親子交流会、花巻版ＮＴＳ、オリンピック選手を囲んで花巻フェスタ、大崎電気スタッフ選手と交流会、全日本男子＆大崎電気チーム合同合宿の合間に子ども達との交流会＆講習会

②H15年12月に市から市内12小学校及び8中学校に、ゴール（スイングタフネット40台）とボール（検定球＆ソフトスポンジボール436個）が配置された。

最近の実績（☆）と今後の課題（□）

【小学校】

☆H14年度から市体協及び市教委主催でハンドボール教室を開催。

☆H15地域シンボルスポーツ推進事業とハンドボール・キャラバンの内容が岩手日日新聞元旦号に特集掲載。

☆H15～小学校の年間授業計画へのハンドボール授業導入促進。

　a．ハンドボール・キャラバンとアンケート調査

　b．H16県教育研究発表会において「小中高一貫性あるハンドボール授業」を発表。

　c．H17県協会主催小学校研究集会、県中高体育実技講習会（中央講習伝達講習会）への参加。

☆H17県民体育大会に小学校部門新設。県南春秋大会、大沼杯、チェリーカップの各大会に、リトルハンド、矢巾フェニックス、花巻クラブジュニア出場。

□年間授業計画への採用促進と市内小学校大会への発展

【中学校】

☆花巻中男：H15県中総体初優勝、H17県新人３位。

☆花巻北中男：H15県１年生大会優勝、H16県中総体３位、大崎杯３位、ＪＯＣ全国大会に１名参加。

☆選択体育でハンドボールを経験したメンバーでチームを結成し、H16に宮野目中男子、H17に石鳥谷中男女、更に、花巻クラブジュニアの卒業生が女子チームを結成して県南大会初参加。

□上記以外への部活動設置の促進と上記校における女子部の設置促進

【高校】

☆H16高体連花巻支部ハンドボール専門部設立。

☆花巻北＆農業合同チームH16県１年生大会準優勝。花巻南高校女子H16県１年生大会４位。

☆H16NTSセンタートレーニングに花巻北高男子３年１名参加。

☆H17県高体連専門部ドイツ遠征花巻北高男子１名と花巻南高女子３名参加。

☆H17花巻で開催された日韓交流事業に男女花巻選抜チーム参加。

□全国選抜大会及びインターハイの誘致

【大学】

☆富士大学男子：H16早稲田大学招待試合。H17東北春秋リーグ優勝。H17インカレ初出場。

☆富士大学女子：H17年度新設。東北春リーグ１部昇格。秋リーグ４位。県内大会制覇。

□大学チームの合宿及び大会誘致

【一般他】

☆H14～花巻スポレクフェスタ：芝生でハンドボール＆チュックボール体験コーナー開催（別掲参照）

☆H16第12回全日本マスターズ大会開催および全日本男子＆大崎電気合同合宿開催。

☆H16花巻ハンドボールマスコット“ホウルくん”誕生【絵：漫画家 池野恋、命名：柏葉公平】

☆ホームページでの情報提供～「岩手ハンドボール応援ページ」＆「リトルハンド」

☆H17日本リーグプレーオフ大崎電気応援ツアー

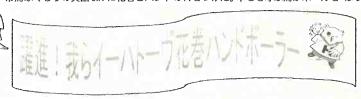
□テレビ番組制作～H18. 1. 14日本リーグ花巻大会「大崎電気 vs 大同特殊鋼」＆県ハンドボール事情

□H19. 9全日本実業団選手権大会花巻開催に向けた準備

総括

今年、花巻クラブ（一般男女）とジュニア（少年団）とガンバ花クラ（マスターズ）の３世代のユニホームを統一デザインにし、また、どのカテゴリーでも使える応援幕を作りました。市協会理事長の谷川富男氏はじめ、花巻クラブジュニア世話人の菅原秀行氏や藤原啓史氏ほか関係スタッフの協力により、こうした試みを積み重ねてジュニア層が充実してきました。今年３月のプレーオフ応援ツアーには、子どもから大人まで大型一台に大太鼓持参で駆けつけ、熱烈な応援で選手たちと触れあい、大崎電気の日本リーグ初優勝の歓喜に浸ることができました。こんな取り組みの中から、いつの日かオリンピック選手が育ってくれることを夢みています。また、来る日本リーグ花巻大会（H18. 1. 14）では、小中学生をはじめとする低年齢層への普及、競技人口とファンの拡大を狙ってテレビ番組を製作します。マスメディアを通じてハンドボールの魅力を身近に感じてもらえる大きなチャンスです。行政支援の「地域シンボルスポーツ推進事業」は昨年度で終わりましたが、アンケート調査結果のとおり、市内の小中学校関係者からはハンドボールの教材的価値の評価は高く、今後の事業継続が期

待されています。今春、県高体連専門部長を退職して富士大学女子部監督に就任した小友正人氏や、花巻中学校に着任した県中体連専門部委員長 岩角聖孝氏が、県高体連専門部委員長 阿部伸氏（花巻南高校）らとともに、市や県協会との連携を図りつつ各カテゴリーの充実発展を目指すことが、同時に、地元の小学生から一般の愛好者を増やすことにも波及し、やがてハンドボールが、真に“シンボルスポーツ”として認められる日が訪れると信じています。これまで、お世話頂きました講師並びに関係の方々に誌面を借りて心より感謝を申し上げますとともに、どうぞ今後ともご支援ご指導をお願い申し上げます。

花巻ハンドボールマスコット“ホウルくん”と応援幕
市鳥ふくろうの英語owlに花巻とハンドのHをつけた。幸せを呼ぶ鳥がボールを“ほうる”

注：花巻出身の詩人であり童話作家の宮沢賢治は、自らが生まれ育った岩手県を理想郷“イーハトーヴ”と呼びました。このエスペラント語風の造語には、岩手の地から常に世界を見つめ普遍性を求めた賢治の開かれた世界観が示されています。

花巻市ハンドボール協会便り

グラスハンド＆チュックボール in はなまきスポレクフェスタ

花巻市ハンドボール協会事務局　**中島 昭博**

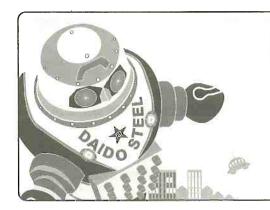
期　　日：10月10日（体育の日）10時～14時
場　　所：日居城野運動公園（花巻市総合体育館及び周辺芝生広場、野球場、テニスコート）
主　　催：はなまきスポレクフェスタ実行委員会
（構成団体：花巻市、市教育委員会、市校長会、市体育指導委員協議会、市生涯スポーツ推進協議会、市早起きマラソン推進運営委員会、市体協、市レクリエーション協会、花巻ウォーキング協会）
協力団体：警察署、消防事務組合、市陸上競技協会、市ハンドボール協会、市野球協会、市ソフトテニス協会、市体操協会、市ゲートボール協会、市ペタンク協会、市グランドゴルフ協会、県スポーツチャンバラ協会、市インディアカ協会、PL岩手MBA、キッズモダンバレエ教室
同時開催：市民総参加マラソン大会、ポラーノフェスティバル（勤労青少年ホーム主催事業）、フリーマーケット（市民フリーマーケットの会主催事業）、健康福祉まつり（健康福祉まつり実行委員会主催事業）

「グラスハンド」「チュックボール」が、温泉ペア宿泊券やスポーツ用品等が当たる抽選会のお楽しみもあるスタンプラリーのイベントに参加したのは、今年で4回目です。

今回は、グラスハンド会場の芝生広場に真っ先に登場した子どもたちから「去年も参加したからルールは知ってるよ！」という言葉が飛び出してスタッフを喜ばせてくれました。

幼児から小・中学生とその親御さんたちが男女入り交じり、たくさんの市民がビーチハンドルールによるボーナス得点ありのグラスハンド＆チュックボール２つの（兄妹のような）楽しいボールゲームに興じました。今秋、岩手で開催された全国スポレク祭のキャラクター“キジ丸”も登場して、一緒に汗をかきました。

チュックボールとは、斜めに設置されたネット面にボールを当てて、敵味方が交代で投げ合い、その跳ね返りをキャッチし合う競技で、妨害することは禁じられ、お互いのプレーを尊重して、投げる＆キャッチすることを保障する紳士的なゲームで、誰でも楽しめるスポーツです。フランス語でボールがネットにあたった時の音が“チュック”と鳴ることから名付けられました。

隣接会場では、ペタンクやグランドゴルフ、新体力テスト種目のハンドボール投げや50ｍ走の測定、体育館ではトランポリンやインディアカ・スポーツチャンバラなどのニュースポーツが行われ、一般市民が競技スポーツとは違ったスポーツの醍醐味を味わっていました。

スコアールーム ①

第60回国民体育大会秋季大会

開催期日：平成17年10月22日（土）～27日（木）

会　　場：岡山県立津山工業高等学校体育館、鏡野町多目的屋内運動場、真庭市落合総合公園白梅総合体育館、真庭市落合総合公園ゲートボールセンター、真庭市勝山スポーツセンター

【成年男子】

◆順位

優勝：埼玉県
2位：広島県
3位：愛知県
4位：三重県
5位：岡山県、佐賀県、熊本県、福井県

◆1回戦

富山県　28（11－10、17－12）22　静岡県
沖縄県　32（19－10、13－9）19　宮城県
山口県　30（16－15、14－11）26　青森県
大阪府　30（14－16、16－13）29　茨城県
神奈川　35（18－7、17－18）25　北海道
高知県　22（11－11、11－10）21　兵庫県
秋田県　30（14－14、16－8）22　奈良県
東京都　37（23－8、14－14）22　愛媛県

◆2回戦

埼玉県　39（23－6、16－9）15　富山県
岡山県　32（17－13、15－12）25　沖縄県
佐賀県　46（18－11、28－7）18　山口県
三重県　38（21－5、17－19）24　大阪府
広島県　36（18－8、18－10）18　神奈川
熊本県　27（11－4、16－9）13　高知県
福井県　41（23－8、18－10）18　秋田県
愛知県　34（20－17、14－12）29　東京都

◆準々決勝

埼玉県　32（15－16、17－15）31　岡山県
三重県　35（15－18、20－7）25　佐賀県
広島県　29（15－9、14－10）19　熊本県
愛知県　36（19－14、17－13）27　福井県

◆準決勝

埼玉県　34（19－12、15－15）27　三重県
広島県　32（18－11、14－18）29　愛知県

◆3位決定戦

愛知県　28（10－14、18－13）27　三重県

◆決勝戦

埼玉県　31（15—7、16—15）22　広島県

【成年女子】

◆順位

優勝：鹿児島県
2位：石川県
3位：岡山県
4位：広島県
5位：福島県、愛知県、三重県、香川県

◆1回戦

愛知県　27（14－11、8－11）24　兵庫県
（3－1延長2－1）
鹿児島　39（15－5、24－10）15　富山県
三重県　30（18－4、12－6）10　京都府
香川県　26（13－7、13－9）16　秋田県
広島県　31（16－6、15－10）16　茨城県
石川県　38（18－7、20－10）17　東京都
福島県　29（15－5、14－5）10　北海道
岡山県　33（18－8、15－10）18　沖縄県

◆準々決勝

石川県　33（18－3、15－4）7　福島県
岡山県　29（15－6、14－7）13　愛知県
鹿児島　28（9－10、19－8）18　三重県
広島県　26（13－8、13－15）23　香川県

◆準決勝

石川県　21（9－9、12－9）18　岡山県
鹿児島県　34（18－9、16－15）24　広島県

◆3位決定戦

岡山県　26（10－13、16－10）23　広島県

◆決勝戦

鹿児島　24（8—12、16—10）22　石川県

【少年男子】

◆順位

優勝：沖縄県
2位：福井県
3位：香川県
4位：岡山県
5位：神奈川県、埼玉県、三重県、宮崎県

◆1回戦

沖縄県　36（16－11、20－14）25　大阪府
神奈川　22（10－12、12－9）21　愛知県
埼玉県　36（18－5、18－14）19　山口県
香川県　20（9－6、11－12）18　岩手県
三重県　33（14－15、19－14）29　千葉県
福井県　26（11－13、15－9）22　北海道
岡山県　30（16－9、14－13）22　兵庫県
宮崎県　38（17－8、21－8）16　青森県

◆準々決勝

沖縄県　35（17－10、18－16）26　神奈川

香川県　32（19－10、13－10）20　埼玉県
福井県　33（17－13、16－12）25　三重県
岡山県　24（12－14、12－9）23　宮崎県

◆準決勝
沖縄県　35（15－10、20－12）22　香川県
福井県　25（16－7、9－10）17　岡山県

◆3位決定戦
香川県　24（14－9、10－8）17　岡山県

◆決勝戦
沖縄県　38（20－10、18－11）21　福井県

【少年女子】

◆順位
優勝：東京都
2位：大阪府
3位：京都府
4位：愛知県
5位：三重県、岡山県、熊本県、埼玉県

◆1回戦
福岡県　26（12－12、14－10）22　茨城県
山口県　20（10－7、10－8）15　神奈川
岡山県　27（13－13、14－6）19　富山県
大分県　30（15－9、15－11）20　秋田県
石川県　32（19－15、13－7）22　岩手県
熊本県　29（14－3、15－9）12　北海道
埼玉県　36（15－8、21－9）17　広島県
愛知県　25（9－8、16－6）14　香川県

◆2回戦
京都府　30（14－7、16－12）19　福岡県
三重県　30（12－9、12－15）24　山口県
（3－0延長3－0）
岡山県　30（12－11、18－10）21　群馬県
大阪府　26（13－6、13－10）16　大分県
東京都　25（12－7、13－5）12　石川県
熊本県　23（13－5、10－14）19　岐阜県
埼玉県　27（15－12、12－9）21　兵庫県
愛知県　27（10－11、13－12）26　沖縄県
（2－2延長2－1）

◆準々決勝
京都府　26（14－10、12－8）18　三重県
大阪府　24（12－8、12－12）20　岡山県
東京都　21（11－8、10－10）18　熊本県
愛知県　34（17－13、17－10）23　埼玉県

◆準決勝
大阪府　18（13－9、5－7）16　京都府
東京都　24（12－12、12－10）22　愛知県

◆3位決定戦
京都府　19（10－8、9－9）17　愛知県

◆決勝戦
東京都　18（10－11、8－5）16　大阪府

スコアールーム②　第40回全国高等専門学校体育大会

期　日：平成17年8月6日（土）～7日（日）
会　場：川崎市とどろきアリーナ

■予選リーグ

〈(1)ブロック〉
一関高専　18（7－4、11－11）15　都城高専
都城高専　28（14－11、14－9）20　明石高専
一関高専　24（13－7、11－8）15　明石高専
［順位］
1位　一関高専　2勝…準決勝へ
2位　都城高専　1勝1敗
3位　明石高専　2敗

〈(2)ブロック〉
北九州高専　14（5－7、9－4）11　石川高専
豊田高専　25（13－5、12－12）17　石川高専
豊田高専　25（10－14、15－6）20　北九州高専
［順位］
1位　豊田高専　2勝…準決勝へ
2位　北九州高専　1勝1敗
3位　石川高専　2敗

〈(3)ブロック〉
津山高専　18（10－5、8－7）12　サレジオ高専
大阪府立高専　24（8－4、16－8）12　サレジオ高専
大阪府立高専　19（10－11、9－3）14　津山高専
［順位］
1位　大阪府立高専　2勝…準決勝へ
2位　津山高専　1勝1敗
3位　サレジオ高専　2敗

〈(4)ブロック〉
東京高専　28（17－7、11－9）16　松江高専
東京高専　25（11－6、14－13）19　高知高専
高知高専　22（11－8、11－12）20　松江高専
［順位］
1位　東京高専　2勝…準決勝へ
2位　高知高専　1勝1敗
3位　松江高専　2敗

■決勝トーナメント

◆準決勝
豊田高専　17（7－3、10－9）12　一関高専
大阪府立高専　22（8－7、14－11）18　東京高専

◆決勝
豊田高専　21（11－7、10－10）17　大阪府立高専
（4年連続7回目の優勝）

平成17年度9月常務理事会

日　時：平成17年9月10日（土）
場　所：大崎電気工業（株）本社新館4F会議室（五反田）
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事2名、参事1名

審議事項

1. 平成17年度第二次補正予算について
9月末日現在の予算執行状況を10月早々に配布、各担当常務理事は、予定事業の執行状況報告と共に第二次補正について検討、補正がある場合は速やかに提出。

2. 第3回日本車椅子競技大会補助金について
標記大会に補助金を出す。同連盟に対し今後の方向性について、審判育成なども含めて聞く。

3. 第60回岡山国体時開催全国理事長会について
今年度は①日本協会の現状報告、②登録金改訂について、③話題提供をする。当日の議題、進行については専務理事に一任。

4. 強化関係（育英資金、報奨金）について
専務理事と担当常務理事で話し合って次回具体案を提出する。

5. 2005年度「朝日スポーツ賞」候補者推薦について
今回の推薦は見送る。

6. その他
1）IHFのフォトコンテストで入賞した機関誌編集委員長の北村氏を表彰する。
2）全日本総合放映権料の減額を承認。今後、プレーオフが全国放送、地上波以外のメディアで放送できないかNHKと交渉する。
3）協会70周年誌の発行について検討する。

報告事項

1. 強化関係について
女子ジュニア（チェコ）大会の説明。

2. マーケティングについて
ナショナルチームのユニフォームに入れる広告を募集。

3. 北京オリンピックアジア予選について
北京オリンピックのアジア予選日本開催をAHFに打診した。開催場所について検討。

4. 第60回岡山国体役員動向について
資料により説明。

5. 公認指導者有資格者について
資格取得者のいない県が出る可能性がある。国体の監督が出せなくなった場合は、次年度必ず取得することを条件に仮免許対応。日本リーグでも資格の徹底を図る。日本協会として日体協の指導者資格も利用した独自の指導者体系を作る必要あり。

6. 国体都道府県出場選択（ふるさと等）事例
資料により説明。新卒者はふるさとに優先される。

7. 第1回全国中学生大会について（全県出場について）
資料9により説明。文科省は賞状を出す、大会冠名については3～4年実績を作った後で検討。

8. 国際関係、国際大会スケジュール
資料により説明。

9. 7、8月大会結果
資料により説明。

10. 第10回ヒロシマ国際アンケート結果
資料により説明。結果を今後の活動に生かす。

11. ハンドボール公式記録コンピュータ出力
資料により説明。ソフトは長崎県協会から紹介されたもの。競技部で検討する。

12. 機関誌発送形態の変更（第三種から冊子小包）について
資料により説明。

13. 10万人会について
資料により説明。

14. その他
1）協会宛投書について。
2）新事務局員が10月1日付けで決定。

その他資料

1. IHF Rules of Game 2005/08/01
2. 事務局連絡資料
3. 平成17年度7月常務理事会議事録

日本ハンドボール協会参与の中澤重夫様（元副会長・芝浦工業大学名誉教授）は、この度の秋の叙勲で「瑞宝小綬章」を受章されました。
謹んでお慶び申し上げます。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【北海道】高橋英明　【岩手】田口まり子　【宮城】吉本涼太　【茨城】野村正志　【群馬】岡部千秋　【埼玉】細津誠、今川竹乃　【千葉】岡本聡　【東京】渡辺慶寿　【神奈川】佐久間健、小林弘樹　【長野】服部博幸　【富山】若松路夫、武田守　【愛知】秋田真理子　【三重】田村金子　【大阪】山中善之祐、平田光徳、中塚冨佐子、野田佳央里　【山口】西川精二　【福岡】島田哲郎　【佐賀】久保田秀光　【長崎】藤山聖子　【熊本】大島隆志

北京オリンピック出場応援キャンペーンスタート、まずは「全日本総合」から

（財）日本ハンドボール協会では北京オリンピック出場を目指すナショナルチーム応援のために報奨金制度を設けました。広くその思いを選手達に伝えるために、より多くの方々に呼びかけることにしました。まずは、12月21日から福井市で開催される全日本総合選手権会場に募金箱を設置いたします。皆様のご協力をお願いいたします。

【12月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

12月10日　常務理事会（東京）

平成18年1月21日　常務理事会（東京）

【大会】……………………………………………………………

12月5日～18日　第17回女子世界選手権
（ロシア：サンクトペテルベルグ）

12月21日～25日
第57回全日本総合選手権大会（福井県福井市）

12月24日～27日
第14回JOCジュニアオリンピックカップ（大阪府堺市）

訃報

神奈川県協会理事長　金子忠博氏（享年57歳）は10月29日午後10時20分くも膜下出血のため治療の甲斐なく、ご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

お知らせ：次号は合併号です

次号は１／２合併号として２月１日に発行されます。

HAND BALL CONTENTS Dec

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます

1 人工皮革
2 フォーム層
3 補強層
4 ラバーチューブ

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十七年十一月二十六日印刷 平成十七年十二月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円